

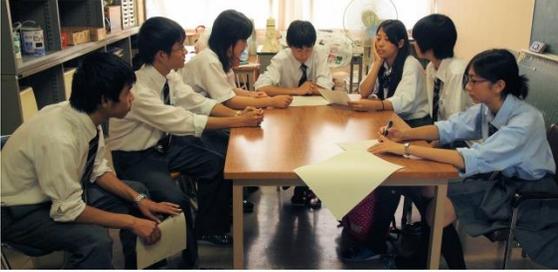
## 私たちがこつての芥川新聞！

生徒会長

平成26年度前期生徒会会長の  
私は1年生のころから生徒会執行部の活動を  
させていたれています。生徒会執行部は学校  
全体の行事、例えば、体育祭、文化祭の司会進  
行や運営などを行なっています。その他にも、  
CHEERSという団体に参加して他校との交流  
やエコキヤップ活動をしたり、飛び地の「フラ  
ワーガーデン」などでの地域の方々との交流も  
大切に行っています。また、駅の周辺であしなが  
学生募金などの募金活動も行なっています。こ  
れらの活動は生徒会執行部役員だけで行おう  
ではなく、クラスメートにも声をかけて、みな  
で楽しく取り組んでいます。

私たちのこれらの活動はいつも学校新聞「芥  
川」(以下、芥川新聞と書きます。)で取り上げ  
てもらっています。私が生徒会のメンバーにな  
って最初に芥川新聞で取り上げてもらったのは  
確か、あしなが学生募金の時でした。1年生の  
冬とても寒く、立ちっぱなしで、道行く人々  
に声をかけたのを覚えています。募金してくだ  
さった方々に「頑張っただけ！」とほげまされ  
る、その言葉の温かさにこっちが元気をもら  
えるんだと驚きました。でもこれは、あくまで  
も学校外の活動なので、こんなことを生徒会執  
行部がしていると友達も知らないのは少しさみ  
しいなど感じている時に、芥川新聞に募金活動  
の記事が載っていて、とてもうれしかった。芥  
川新聞を見た友達数人が、「めっちゃ頑張っ  
てるやん!」とか「これ  
からも応援するね!」  
と言ってくれて、記事  
に載っただけでもうれ  
しかったのに、そうや  
って友達から「見たよ」  
と言われてうれしさが  
何倍にもふくらんで、  
「これからも頑張らな  
い」と思っています。

私が読んだ記事の中  
ではミラニ高校との  
交流が特に記憶に残っ  
た。



ています。オーストラリアの大自然の美しさや  
ステキな人々との出会いがとても熱く語られて  
いて、まるで自分もいっしょにそこに参加して  
いるかのような気持ちになりました。他には体  
育祭や文化祭の記事になると、生徒会としての  
取り組みを振り返ったり、みんなと盛り上がっ  
たりしたことを改めて思い浮かべて、感慨にふ  
けりながら記事を読んでいた。

また、芥川高校のホームページからは芥川新  
聞を見ることができ、たまに家で家族と  
一緒にホームページを見ながら生徒会が載って  
いる記事や学校の話で盛り上がることもありま  
す。

そういえば、中学の時に何度か芥川新聞を見  
ていました。高校の学校説明会やオープンスク  
ールの時に配布されていて、その時、各学年の  
活動内容や様々な行事など、芥川高校のことが  
わかりやすくてとても楽しそうなお印象があつたの  
で、中学校の友人たちと「なんか楽しそうやね。」  
と話をしたことを覚えています。

芥川新聞には、笑顔の写真がとても多いと思  
います。私は生徒会執行部の記事でなくても、  
みんなの顔が写真の中に笑顔でたくさん載って  
いるのを見るたびに、とてもうれしくなります。  
でも、私たちに配られる芥川新聞はいつも白黒  
の印刷なので、少し見えにくいところがあるの  
がとても残念です。体育祭の写真とか、文化  
祭の写真とか、せつかく皆が笑顔で楽しそうな  
のに白黒でよく見えないと悲しくなりますから  
ね。だから、職員室前や校舎の入口のところに  
貼り出されている、大きくカラーで印刷された  
芥川新聞について行ってみたいです。

私は、この芥川新聞がこの先もずっと続いて  
ほしいと思います。でも一つだけ、たまには生  
徒達にもカラーの芥川新聞を配布することを検  
討していただけたらうれしいです。

### 編集後記

\* 今回は、芥川新聞発行を引き継いできた歴代  
担当者のコメントです。

#### 大阪府立成城高等学校 校長

200号発行、おめでとうございます。校長先生の  
もと、創刊号を発行した当時は、このようなスピ  
ードで発行できていなかったもので、私以降の方々  
が大変な尽力で高い頻度での発行をなさったとも

のと推察し、驚嘆しております。

私が教頭として赴任した当時の芥川高校は、先  
生方の雰囲気は温かく、気持ちよく仕事をさせて  
もらいました。ただ、その一方で情報発信につい  
ては活発でなく、学校案内リーフレットでさえ一  
部のミドルリーダーの想いで発行されていました。  
校長主導の情報発信が必要であると考え、「学校新  
聞」を教頭が記事を集めて発行することを職員会  
議で報告したところ、一部に疑念の意見もありま  
したが、多くの先生方は極めて協力的でした。創  
刊にあたり、ICTに長けた坂口教諭(当時)に  
技術的な指導を受け、番号は私が編集していま  
したが、早々に坂口教諭にバトンタッチしました。  
現任校の成城高校でも赴任直後から学校新聞  
「せいじょう」を首席に発行してもらっています  
が、芥川高校の発行スピードには及びません。大  
変なご尽力にあためて敬意を表します。

#### 大阪府立勝山高等学校 教頭

200号発行おめでとうございます。学校の情報発  
信を強く望む保護者の声にこたえて平成17年度当  
時の岩間校長、教頭の発案で創刊され、途中から  
引き継ぎ、平成21年度まで編集を担当しました。  
発刊当時は、サッカー部のインターハイ出場、和  
太鼓部の全国大会優秀賞受賞など生徒がめざまし  
い成果を上げており、学校全体が活気にあふれて  
いた頃でした。おかげで、その後も記事に困るこ  
とはなく、目標にしていた月2回の発行ペースは  
難なく維持できました。私は、速報性と視覚に訴  
えることを重視していたため、記事は情報発信者  
のお名前を借りて、ほとんど自分で書き、自前の  
デジタルカメラを持ち取材のため部活動の試合などにも  
よく出かけました。生徒ばかりでなく、PTAや  
後援会も多くの記事を提供してくださりました。  
そして、大井校長(平成18・19年度)が、高槻市  
教委に相談くださり、市内の中学校に「芥川」を  
配布していただけるようになったことも、発行す  
る意欲と内容の充実にもますます拍車をかけてくれ  
ました。転勤に伴って佐藤先生に引き継いでから  
は、さらに頻繁な発行ペースと、編集者ではなく  
発信者が記事を自ら書いておられると伺い、まさ  
に学校新聞の理想であり、完成した姿だと感服し  
ております。今後ますます多くの方々に愛読され  
る「芥川」でありつづけることと信じております。

#### 大阪府立芥川高等学校 教諭

ついに200号発行。感動一入(ひとしお)です。  
➤首席から首席の仕事(当時は首席でした。)を引  
き継ぐときに、何よりも不安だったのは、学校新  
聞「芥川」の発行を継続することが自分にはでき  
るのだろうか?ということでした。しかし、新米  
首席の私を周りの先生方が快くフォローしてい  
ただき、気が付くと、新聞記事のほとんどは先生方  
の寄稿で埋まるようになりました。それどころか、  
号を重ねるごとに先生方の生徒たちに対する熱い  
思いに比例して寄稿してくださる記事の文章がど  
んどん長くなり、新聞の発行数が増えていきまし  
た。結果的に昨年、一昨年は年間30号も発行す  
るとも活動的な(ー)学校新聞になってしま  
いました。

また、私が担当した4年間は進路実績が伸び、  
学校が変化した4年間でもありました。このため、  
新聞でも年を追うごとに進路面の記事が増えてい  
きました。

このたび、学校新聞「芥川」を担当した4年間  
の集大成として、この200号を担当させていただきました  
にあたり、改めて9年間の記事に目を通して実感  
したのは、あらゆる面で芥川高校は目覚ましい歩  
みを遂げてきたのだというものでした。

今後とも、さらなる歩みをつづける芥川高校で  
あるとともに、学校新聞「芥川」も歩み続けてい  
くことを期待します。

#### 大阪府立芥川高等学校 首席

今年度より、学校新聞「芥川」の編集を担当さ  
せていただいています。発行していく中で今まで  
の記事を読み返してみると、芥川高校が様々な取  
り組みを行っていることを改めて知ることができ  
ました。現在は教職員の皆さんからの多くの記事  
の発信によって、不慣れながらもなんとか月2回の  
発行にこぎついています。職員室前にA1版の新聞  
を掲示しているのですが、生徒たちが新聞を見な  
がら話をしている様子をよく見かけます。発行者  
として、とてもうれしく感じる瞬間です。  
今後芥川高校の活き活きとした姿を発信して  
いきたいと考えています。